

〈TAN's Amici Concert〉

東京混声合唱団 第231回 定期演奏会

TOKYO PHILHARMONIC CHORUS

文化芸術振興費補助金（トップレベルの舞台芸術創造事業）

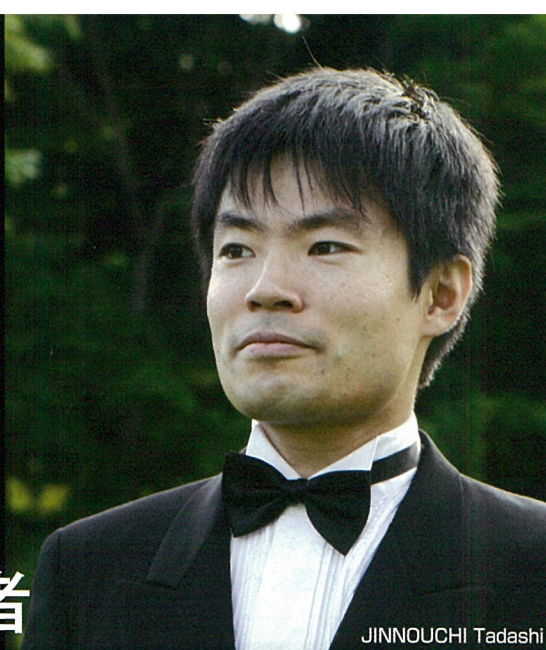
2013年10月25日(金) 19:00開演(18:30開場)

第一生命ホール（晴海トリトンスクエア内）

指揮 Conductors

陣内 直 JINNOUCHI Tadashi (客演指揮) ——— J

松原千振 MATSUBARA Chifuru (正指揮者) ——— M



JINNOUCHI Tadashi

合唱音楽に賭ける輝く2人の指揮者

■ハンガリーの合唱作品

リゲティ 作曲 ——— カッローの対舞

György Ligeti(1923-2006)

Kállai kettos (1952)

ファルカシュ 作曲 ——— バラのマドリガル

Ferenc Farkas(1905-2000)

Rózsa Madrigál (1947)

コダーイ 作曲 ——— ノルウェーの娘／イエスと商人／タペの歌

Zoltán Kodály (1882-1967)

Norvég leányok(1940)／Jézus és a kufárok(1934)／
Esti dal(1938)

■福島 雄次郎 作曲 ——— 無伴奏女声合唱のための

FUKUSHIMA Yujiro(1932-2005) 南島歌遊び その2「伝説」(1982-83)

1. 鳴咽 2. 野茶坊 3. 哀怨 4. 橋

■石黒 晶 作曲 ——— 『愛のうた 恋のうた』—混声合唱のための—

ISHIGURO Sayaka(1954-) (2013年委嘱作品初演)

「まやしえこ」波照間島の伝承詩

「あのひとが来て」谷川俊太郎

「みだれ髪」与謝野晶子

「おれは六十で君は十六」金子光晴（原題：愛情2）

■トルミス 作曲 ——— イスホリア人の史話

Veljo Tormis(1930-) Isuri Eepos (1975)

1. 天地創造 Maailma loomine

2. 3羽のカッコウ Kolme kão kukkumine

3. 婚礼の歌 Pulmalaul

4. 息子か、娘か Poeg või tütar

5. 戦へ Sõduriks võtmine

6. 不運なことに Oh, ma vaene poisikene

7. 口は歌い、心は沈む Suu laulis, süda muretses

8. 海からの剣 Mõök merest

9. 蛇への呪文 Ussisõnad

10. ウンタモとカレルヴォ Undarmoi ja kalervoi

語り：岡部 申之 ほか narrator：OKABE Nobuyuki etc.

主催 一般財団法人 合唱音楽振興会 Association for Promoting Choral Music

入場料(税込み・全自由席) 一般券 4,000円 学生券 2,000円

【前売り・問い合わせ】

東京混声合唱団事務局 〒160-0005 新宿区愛住町23番地 ベルックス新宿ビルⅡ 6F

TEL03(3226)9755 FAX 03(3226)9882 <http://toukon1956.com>

トリトン・アーツ・ネットワーク・チケットデスク

TEL03(3532)5702 <http://www.triton-arts.net>

チケットぴあ TEL0570(02)9999 (Pコード 205-210)

CNプレイガイド TEL0570(08)9990

ローソンチケット TEL0570(000)407 (Lコード 33116)

東京文化会館チケットサービス TEL03(5685)0650

東京コンサーツ <http://www.tokyo-concerts.co.jp/>

(東京コンサーツHPで予約をして、セブンイレブンで支払い、受け取りができます。)



文化庁

東京混声合唱団第231回定期演奏会

「ハンガリーの合唱曲に寄せて」

陣内 直

ハンガリーは遠いヨーロッパの、真ん中から少し右に寄った大きな盆地に広がる国。熱く乾いた大平原に大河ドナウ川が流れ、豊かな恵みと広大な湿地をもたらしている。周りをポーランドやチェコなどスラブ民族や、ゲルマン民族、またルーマニアなどのラテン民族に囲まれながら、ハンガリー自身はフン・マジャール民族というアジア系の血を色濃くもち、その差異を歴史的にも文化的にも強く意識する誇り高いひとびとである。

カッロー地方とは、肥沃な平原の北の端に近い、小さな村々の集まる伝統ある地域だ。民謡は恋のうたである（『カッロー地方の対舞』）。典型的なハンガリーの恋歌は、どこかメランコリックで哀愁が漂う。民謡でなくても恋歌は切ない（『薔薇のマドリガル』）。日本人が花鳥風月を歌うように、ハンガリー民謡はよく、悲哀と恋をうたう。それに比べてノルウェー人の女の子たちを見る時（『ノルウェーの娘』）、その語り口はどこまでも透明で明るい。その代り、宗教的な内容を歌おうとすると（『イエスと商人』）、凄味があり怒りもあり暗く激しく、熱く情熱を語る。最後の『夕べのうた』は、長い放浪の旅の最後に、辿り着くべき安息の地を望む心からの祈りの歌である。



■陣内 直（客演指揮）

札幌生まれ。1993年、ハンガリーに留学する。二年間、ケチケメートのコダーイ音楽教授法研究所にて学び、ディプロマを取得。1995年に、ブダペスト・リスト音楽院・合唱指揮科の入学試験を受け、最優秀で合格する。在学中は指揮をペテル・エルデイ、イシュトバーン・バルカイ、ヴァレール・ヨッバージの各氏に師事。2000年には、

日本人として初めて合唱指揮と音楽教員および音楽理論教員のディプロマを取得する。

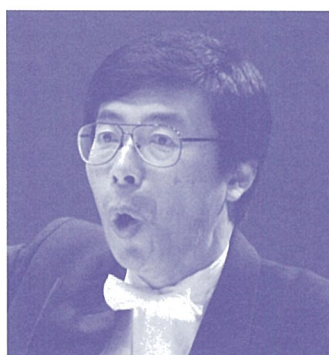
卒業と同時に札幌に戻り、多数の合唱団の指導に当たっている。ソルフェージュ講師として、東京、三重、福井、大阪、福岡など各地でソルフェージュと合唱の講習会の講師を務める。

バロック音楽に興味を持ち、チェンバロ・通奏低音を岩淵恵美子氏に、古楽演奏法を宇田川貞夫氏に師事。

2011年に、フランス・ソレムの、サン・ピエール修道院にて、グレゴリオ聖歌の唱法について、カントール（合唱長）であるイヴ・マリー・ルリエブル氏から直々に教をうけ、研鑽をつむ。

現在、札幌大谷大学非常勤講師、朝日カルチャー及びNHK文化センター講師。札幌音楽家協議会、日本コダーイ協会各会員。声楽アンサンブル「テルプシコレ」メンバー。

2012年7月28日、東京混声合唱団札幌特別演奏会に於いてハンガリーの現代作曲家、ジュンジュシ・レヴェンテ作曲「美しく～愛と欲望のうた～」を東京混声合唱団と日本初演した。



■松原千振（東混正指揮者）

1951年長野県生まれ。国立音楽大学卒。渡欧。シベリウスアカデミーに学び、マスタートラスを修了。エーリク・エーリクソン、ダン・ウーロフ・ステーンルンドに師事。

1978年からフィンランドを中心に北欧及びバルト諸国で活動。ヘルシンキ大学男声合唱団の第二指揮者として、多くの初演を手がけ、1985年からフィンランド放送室内合唱団の指揮者としてルネサンス

時代の作品の指揮にあたる。

また1987年春に、フィンランドで発見された膨大な曲数にのぼる中世の単旋聖歌について、その解説を含む復元作業をフィンランド放送協会から委嘱され、その整備のかたわら蘇演にも当たっている。なお、このために同放送協会は12人の古楽合唱団（セートゥス・ノステル）を編成し提供している。1988年から、エストニア・フィルハーモニー合唱団、ラトビア放送合唱団、ヴァンクーヴァー室内合唱団、ポーランド室内合唱団、エストニア国立男声合唱団等の客演指揮者を務めている。

1995年東混第150回定期演奏会に初登場。1997年東混常任指揮者就任。同年、東混初のヨーロッパ公演を指揮。その後5回にわたる海外公演の全てを指揮。また、アマチュア合唱界の海外交流を含む指揮や指導にも、深い知見による貢献が知られている。

7月末「シベリウス・交響曲でたどる生涯」（アルテスパブリッシング）を上梓。

2013年4月、長年の功績を顕彰して東京混声合唱団正指揮者の称号を贈られた。



■石黒 晶（作曲）

東京藝術大学音楽学部作曲専攻卒業、同大学院音楽研究科修士課程修了。修了作品大学買い上げ。松本民之助、松村禎三、池野成、森川隆之の諸氏に作曲を師事。グイド・ダレツォ国際作曲コンクール、奏楽堂日本歌曲作曲コンクール、朝日作曲賞などに入賞・入選。

沖縄音楽を素材とした《三つの沖縄の歌》《宮古島の二つの歌謡》

で創作活動を開始する。これまで発表した作品は、二期会週間、JCDA合唱の祭典、コーラスめっせ、おかあさんコーラス全国大会、こどもコーラス・フェスティバルをはじめ国内外で演奏されている。近年の合唱作品は《ハッシャバイ・ソングス》（音楽之友社）、《わらべうたのカタログ》（カワイ出版）、《一日巡り》（歌おうNIPPONプロジェクト）等。CD「である」とあるで石黒晶女声合唱作品集（Giovanni）他。NHK合唱コンクールほか各地で審査員を務める。

Hi's Opera Company 委嘱のオペラ《みずゞ》が来春新国立劇場にて初演予定。神戸女学院大学教授。

第一生命ホール案内図

